

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 91413 単位数 : 2

科目名	地理歴史科教育法	科目責任者	仁尾 泰明
課題と試験担当教員	仁尾 泰明		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC262		

■ 科目概要

『学習指導要領』は、わが国の教育目標や教育内容について国が示す大綱的な基準で、文部科学省が告示し、およそ10年ごとに全面改定されます。各学校での教育活動や教科書の内容構成がこれに従うことにより、わが国の教育水準が全国的に保たれるようになっています。

教育の現場では、『学習指導要領』が示している教育の目標や内容、指導上の留意点などを十分理解した上で、教材研究や授業をおこなわなければなりません。

しかし、『学習指導要領』の記述は全般的に極めて凝縮されたものであり、そこから具体的に内容を把握することは容易ではありません。そこで活用できるのが、各科目の『学習指導要領解説』であります。

これは『学習指導要領』の数倍のページ数を費やし、『学習指導要領』の凝縮された文言が意図する内容を詳細に解説したものであります。

本授業では、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』を教科書として用いて、地理歴史科の各科目の性格、目標、内容、指導上の留意点などを理解し、それらの知識を身に付けるとともに、地理歴史科学習指導案の作成に資する知識を養成します。

■ 到達目標

1. 地理歴史科の各科目の性格、目標、内容、指導上の留意点などを理解し、それらの知識を身に付けます。
2. 地理歴史科学習指導案の作成に資する知識を養成します。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章	総説
第1節	改定の趣旨
1	改定の経緯
2	改定の趣旨
3	改定の要点
第2節	地理歴史科の目標
第3節	地理歴史科の科目編成
第2章	各科目
第1節	世界史A
1	科目の性格と目標
2	内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項
第2節	世界史B
1	科目の性格と目標
2	内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項
第3節	日本史A
1	科目の性格と目標
2	内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項

学習範囲 該当する章など	学習内容
第4節 1 2	日本史B 科目の性格と目標 内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項
第5節 1 2	地理A 科目の性格と目標 内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項
第6節 1 2	地理B 科目の性格と目標 内容とその取扱い
3	指導計画の作成と指導上の配慮事項
第3章 1 2 3 4	各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 調和のとれた指導計画の作成と他の教科・科目相互の関連 情報の活用と作業的、体験的な学習 政治及び宗教に関する事項の取扱い 総則関連事項

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	まず、教科書で試験範囲を正しく把握します。それを踏まえて、試験範囲の内容をよく理解しながら、熟読して下さい。しかも試験範囲のどこから出題されても解答できるように、試験範囲をしっかりと読みましょう。決して山をかけないように。試験勉強を通して、教師になるために必要な知識と技能を確実に身に付けるのだという気持ちで臨むとよいです。 教科書の内容について、その理解と習得を問います。
レポート	レポートを作成する際に最も大切なことは、与えられた課題の題意をしっかりと把握することです。課題が何を求めているのか、正しく認識し、それに対応した論理構成でレポートを組み立てていきます。なかには、これが不十分のいわゆる「的外れのレポート」が時々見受けられます。 次に、大切なことは、自分の言葉で綴るといことです。教科書の該当する箇所をそのまま丸写しにしたものや、教科書や参考書の文章を切り貼りした継ぎはぎのものがありますが、いくら課題の題意を把握していても、レポートの価値はなくなってしまいます。平易な表現でもよいですから、内容をしっかりと理解して自分なりの表現や言葉づかいでまとめて下さい。 さらに、大切なことは下書きの段階で十分推敲を行うことです。下書きをよく読み、レポートを何回もチェックしましょう。推敲を何度も行うことによって、レポートを書くことに慣れ、また、レポートの完成度が高くなります。推敲の時間も十分取るように心掛けましょう。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：高等学校学習指導要領解説・地理歴史編
著者名：文部科学省
出版社名：教育出版
出版年：平22.6
版：初版
刷：
ISBN：978-4-316-30022-1

■ 参考書

1. 原田智仁『高等学校新学習指導要領の展開 地理歴史科編』明治図書 2010年 2373 円
2. 国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための 参考資料【高等学校地理歴史】』教育出版 2012年 1197円
3. 日本社会科学会『新版 社会科教育事典』ぎょうせい 2012年 5000円
4. 西川純『すぐ実践できる！アクティブ・ラーニング高校地歴公民』学陽書房 2016年 1900円

■ 履修上のアドバイス

高等学校教育において「地理」を履修しなかった人は、高等学校用の『地理用語集』『地理事典』『地図帳』などを手元に用意して活用されるとよいでしょう。

教科書を丁寧に読み、わからない語句や用語がないように辞書などでよく調べ、その上で内容全体も正確に把握して下さい。大切なことは、通読のレベルにとどまらず精読することです。

■ 自習時間

個人差がありますが、レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験の勉強に40時間程度が考えられます。

■ 担当者のプロフィール

1949年に北海道函館市生まれ、神奈川県横浜市で育つ。
関心を持つ分野は「地理学」「地理教育」「社会科教育」
好きな言葉は「使命を自覚するとき、才能の芽は急速に伸びる」